住宅密集市街地のまちづくりにおけるポケットパークと近隣住民の関係に関する考察

A Study on Relation between Pocket Park and Neighbourhood at Spacial Improvement in Highdensity Area

横田健一* 中村 攻** 木下 勇** 轟 慎一*
Kenichi YOKOTA Osamu NAKAMURA Isami KINOSHITA Shinichi TODOROKI

摘要：住宅密集市街地の住民参加型のまちづくりにおいて、宅地化できない狭小な土地をポケットパークとして整備する動きが各地に起きている。このような状況に対して東京都内の豊島区4・5丁目地区、世田谷区太子堂2・3丁目地区、墨田区一寺・言問地区を事例として、ポケットパークができることに対して近隣住民がどのような関わりを持ち現在に至っているのか、ということをも明らかにするために、主に現在管理に関わっている住民を対象としたヒアリングによる調査を行った。その結果
1. 意識とその表出 2. 問題への対応 3. 小規模な社会集団の発生と縮小
といった点にポケットパークと近隣住民の関わり方の特徴がみられた。

1. 研究の背景・目的

住宅密集地の修復型まちづくりをおこなう際に発生する宅地化できない残地に対して、空地の確保と居住環境の向上を目的としてポケットパークをつくる動きが各地に起きている。¹⁾²⁾こうした修復型まちづくりは、その過程において住民参加が積極的に試みられている。³⁾だがこれらポケットパークが実現した後に近隣住民が特に管理運営について、何をきっかけとしてどのような日常的な関わりを持ち現在に至っているのか、あるいは発生してくる数々の問題に対してどう対応していくのか、さらには関わる住民がどのように変化していくのかといった側面について「近隣住民の視点」から捉え直していくことが重要となってくる。⁴⁾⁵⁾⁶⁾

本論文ではこうした問題意識のもと、それらポケットパークに関わっている近隣住民への聞き取りを通して、各ポケットパークごとに近隣住民の関わり方の展開過程をふまえた上で

- 1) ポケットパークに対し、どのような意識とその表出がみられるのか
 - 2) ポケットパークにおける問題にどのように対応をはかっているのか
 - 3) ポケットパークを介して、どのような社会集団が形成され、変化しているのか
- という3つの観点から検討をはかることを目的とする。

2. 研究の方法

東京都区部でポケットパークづくりの事業をおこなっている豊島、世田谷、隅田、目黒、杉並、文京の各区の計8地区の中から

- ・計画、運営時に住民参加が積極的に試みられ、近隣住民と空間との間に多様な関わりがみられる
- ・地区内にまとまった数がつくれ事業が定着しており、概ね10年程度の時間が経過して近隣住民の関わりが顕著にみられ

表-1 調査対象地

地区名		広場数	調査人数
豊島区	東池袋4・5丁目地区	8カ所	18人
世田谷区	太子堂2・3丁目地区	11カ所	26人
墨田区	一寺言問地区	3カ所	6人
計		24カ所	50人

図-1 居住歴（不明除く）

るという点から対象地を表-1の3地区に決定した。

これらの地区にあるポケットパークについて、まず第1に文献調査と区役所、コンサルタントへのヒアリングを実施した。

第2に、それらポケットパークに関わりのあった近隣住民に対して、個別訪問によるヒアリング調査を1995年10月から12月にかけて合計50人分おこなった。

調査対象者の居住歴は長く(図-1)、広場に接して立地している戸建て住宅の住民が中心であり、また日常の管理運営については住居の近くの特定のものにのみ関わる場合がほとんどであった。

ヒアリングの内容についてはテープレコーダーによる録音をおこない、メモの内容と合わせて記録を起し分類した。

ヒアリングの項目としては

- ・計画時の話し合い、広場の利用状況
- ・管理状況、管理者の変化
- ・意識とその表出
- ・ポケットパークをめぐる社会集団の形成と変化
- ・広場内の空間の変化
- ・問題の発生とその対応

等について聞き取りをした。本論文では量的な把握と共に、調査の内容についての幾つかのヒアリング記録を具体的に提示することで、研究者の主観をできるだけ廃し、素材そのものを文脈を踏まえながら表現し、住民の語りの中に表れる意識と、その結果としての行動が表されている部分を引用しながら考察をはかっているという方法をとった。⁷⁾なお、それらについては以下の文中

・図で【ヒアリング対象者；対象ポケットパーク】と示し、中でも重要な言葉は『 』を用いて抜粋した。各地区のポケットパー

*千葉大学大学院自然科学研究科 **千葉大学園芸学部緑地・環境学科

表-2 広場名称一覧

東池袋4・5丁目地区	第一辻広場	第二辻広場	第三辻広場	第四辻広場
	第五辻広場	第六辻広場	第七辻広場	
太子堂2・3丁目地区	とんぼ広場 かえる広場 さくら広場	かどっこ広場 こぶし広場 だんだん広場	めだか広場 くろまつ広場 やまもも広場	あめんぼ広場 てんとう むし広場
一寺言問地区	路地尊三号基		路地尊四号基	路地尊五号基

クの名称は表-2として示す。具体的なヒアリング内容例は表-5で提示し、本文中と表-5の*印のナンバーは対応している。

3. ポケットパークへの近隣住民の関わりの展開過程

本論文の目的とする3つの観点からの検討に入る前に、まずポケットパークへの近隣住民の関わり（1. で述べた3つの観点的総合）の展開過程を東池袋4・5丁目地区の第二辻広場、第四辻広場（以下〈第二〉〈第八〉のように略して表記する）を用いて例示する。（図-2参照）なお、図中の矢印は関わりの存在を表し、破線のものはかつて関わりがみられたことを示す。

〈第二〉〈第八〉の周辺状況

図-2 近隣住民の関わりの展開過程事例〈第二〉〈第八〉

二階建ての建物を中心とした商店街に一部住宅が混在しており、夕方買い物にきた人がポケットパークで休んでいる姿をよくみかける。図-2中で、線で示されている建物は、MFさんとcさんの家は店舗で、他の家は住宅として利用されている。

〈第二〉〈第八〉への近隣住民の関わりの展開過程

10年程前に〈第二〉ができ、日常の清掃はOさん、cさんとdさんによって行われていた。その後、管理の中心となっていたcさんが転居すると（表6-2-1）、影響力の低下に伴い広場の対角線上に位置していたごみ集積場が〈第二〉へと移動され固定化した。そのため、広場に面した家のMYさんも清掃を始めた。しかしdさんも転居し、関わりは減少して跡地にはマンションが建った。ゴミ問題が悪化したので、柵が設置され（表4-1-2）、MYさんがハングルと中国語の看板の設置を役所に要求したり、ゴミを捨てている現場を見かけると注意している（表4-2-1）。現在の〈第二〉の管理はOさんとMYさんが互いの姿を見かければ声を掛け合い、清掃したり水を撒いたりして（表6-1-2）、ときどきMFさんも清掃している。一方、cさんの家の跡地が〈第八〉として整備されることになり、Sさんは町会の役員で広場づくりの話し合いには参加したが、広場に接していないため、特に関わりは起こらず（表3-4-3）、日常の管理はMFさんの店でパンを買って食べている人もいるので、MFさんがたまに清掃しているが、社会集団の発生のような関わりの発展は見られなかった。

4. 意識とその表出

意識とその表出として「生活環境の向上」が合計13件見られた。これは、『日陰の家が多い』という言葉に代表されるような住宅密集地において空地ができることで日照、通風など物理的に居住環境が向上したという意識が、近所の住民が洗濯物を干しにきたり【Kさん；かえる】*1）（表-5参照、以下同様）、鉢植えを持ってくる【Kさん；第六】といった行動として表出している。

また、地震などの災害時にとっさに逃げ込める場ができることに対して安心感を覚えるといった精神的な影響も【Yさん；かえる】など4件でみられる。その一方で、「生活環境の悪化に対する意識」も6件みられた。これは近隣以外の人もポケットパークに現れることに

表-3 意識とその表出

1) 生活環境の向上に対する意識	
(1) 日照、通風の確保	4件
(2) 雰囲気、ゆとりの向上	
①空間の発生	2件
②植物の増加	3件
(3) 防災面での環境の向上	4件
2) 生活環境の悪化に対する意識	
(1) 問題の発生	2件
⇒「問題への対応」へ	
(2) 周辺環境の悪化	6件
3) 身近な空地としての意識	
(1) 共有地	14件
(2) 観察、監視	5件
(3) 環境の維持、向上	4件
4) ポケットパークへの否定的な意識	
(1) 存在への疑問	3件
(2) 区役所の管理運営への不満	3件
(3) 距離に伴う関係の希薄化	1件

対して、『慣れるまで不安』という言葉にみられるような不安感が、広場との境界部に植栽を配し、門の扉も閉めるきっかけとなったり【Yさん；第七】*2）、広場の様子が常に周囲から見えるよう、植栽を伐るように役所へ要求したりする【Sさん；くろまつ】という行動へと表出している。また〈てんとうむし〉のように、行き止まりの道がポケットパークができることでつながり、通り抜けができるようになったことで近隣以外の人も通るようになり

物騒になったと感じ、玄関の鍵を掛けるという行動へと表出している例も2件みられた。

また、家のそばに空地ができる事に対して、自発的な清掃や草花を植えるという、「共有地としての意識」が具体的な行動に結びついている例が14件みられる。個人の楽しみとしてだけでなく、「通過する人の視線も意識」した「環境の維持、向上への意識」が4件みられること、また日常的に広場に気を配り、「監視役になっている」「気をつけてはいる』『うるさくしている』【Sさん；だんだん】*3）などといった言葉に表れるような「観察、監視の意識」が5件みられるように、ポケットパークを自分達で

表-4 問題への対応

1) 空間の改変による対応	
(1) ゴミ問題	
①ゴミ箱の撤去	3件
②柵の設置	1件
(2) 駐車、駐輪問題	
①車止めの設置	2件
②植木鉢の設置	2件
(3) その他	
①舗装材料の変更	2件
②街灯の設置	1件
③街灯位置の変更	1件
④水道蛇口の取外し	2件
2) 運営による対応	
(1) ゴミ問題	
①注意する	2件
(2) 駐車、駐輪問題	
①注意する	2件
②連絡する	3件
③移動する	2件
④周辺住民の協力	1件
(3) 若者の溜まり場化	
①注意する	2件
②連絡する	2件
(4) 利用者による問題	
①注意する	3件
②対話する	1件
(5) 浮浪者の問題	
①連絡する	2件

管理しようとする意識がうまれている。これらは次項の「問題への対応」という行動へと積極的につながってゆく過程が顕著に言葉に表れている例である。

5. 問題への対応

問題への対応では大きく、空間自体を改善することによる対応と、運営によるソフト面での対応に分かれる。

「空間の改変による対応」の中の「ゴミ問題」では、ゴミ集積所自体が広場へと移動され固定化してしまった広場も〈第二〉〈くろまつ〉の2ヵ所あるが、【MFさん；第二】*4)では「柵の設置」を要求してゴミを一定の範囲に抑えることで対処している。また「駐車，駐輪問題」への対応に、「車止めの設置」の要求や、問題対応のための自発的な「植木鉢の設置」が〈こぶし〉〈だんだん〉などで4件みられた。また【Kさん；かえる】*5)では、木の舗装が雨などで濡れて滑り、怪我をするという事故が何度か起こった事が『周りで話して』という言葉にみられるように周辺の住民の間で話題になったために、「舗装材の変更」を要求して石の舗装へと改修されている。

「運営による対応」としては、「ゴミの放置」や「駐車，駐輪，

「若者の溜まり場化」「利用者の問題」といった事態に対して、計6件で本人に直接注意したり【Oさん；第一】など、町会や役所、警察に「連絡する」といった対応がみられる。このように、まず各人が行動できる範囲から始まるが、例えば「駐車，駐輪問題への対応」では〈やまもも〉のように自転車の撤去まで行ったり、【Yさん；第七】*6)では「広場周辺住民の協力体制」をとり、『お互いに』という言葉にみられるように周辺住民で声を掛けあい、対話を行うことで「バイク駐輪問題」を解決したりしているという例もある。

6. 社会集団の発生と変化

今回調査したポケットパーク22ヵ所の内16ヵ所で、複数の近隣住民や住民組織による、ポケットパークとの間での行動の関わりが見られた。ここでは、それを小規模な社会集団と呼び、それらが存続する要因及び縮小する要因を見てゆくこととする。

「社会集団が存続する要因」として、「運営の中心人物の存在」が5件聞かれた。これは『中心になって』という言葉に表れるような、ポケットパークごとにリーダー的な存在となる近隣住民が存在し、その人が活動の中心となり、花植えの活動を発展、存続

表-5 ヒアリング例

<p>*1) 「前、二階屋が建ってたんですね。それがなくなったから、... この辺は日陰の家が多いから、私は昼間、勤めていないから、日の当たってっ時はみんな洗濯物持ってきて干してねなんて言うから。... おたく、毎日の洗濯物多いわねなんて言われるけど、家の洗濯物じゃなかったりして。」</p> <p>【Kさん；かえる】</p>	<p>*7) 「(普段の管理は) まあ。うちと隣、親戚ですしね。まあ中心になって二人でやってます。もう夏場は朝夕2度。掃除は毎朝、私が6時前後。... 花苗がくるんです。... 何日の何時からやりますけどご都合のいい方どうぞって。大抵、六人位集まります、ええ。... 大体、一緒にするのは隣接している家族と、離れてるけどとっても花好きなおくさんとかね。... 声はね、みんなに掛けてるんですね。」</p> <p>【Tさん；だんだん】</p>
<p>*2) 「そのサザンカはやっぱり工事やりだした年から植えました。... 結構人通りがあるんですよ。ですから自分で求めてサザンカ、背の高いの植えました。それで部屋の中にもちょっと目隠しのカーテン、そこだけ背丈位のカーテンをやってるんです。... 落ち着くまではちょっと不安でしたね。」</p> <p>【Yさん；第七】</p>	<p>*8) 「お掃除はみんな三人でやってるけどね。... 掃除やなんかしたりねしてね。そういう仲良くしてるから、なんかほらしようかっていうとすぐぱっと。水でもあげようかとかって、草むしりこうしてて草むしりするって言うと、みんな出てきて手伝ってくれるの。ちょっと声掛けるとみんなやってくれるから。」</p> <p>【Tさん；やまもも】</p>
<p>*3) 「ゴミは我々がうるさくしてるから。目、張ってるからね、別に散らかしてないでしょ。あんまりタバコ吸ったり、物投げたり、めっちゃくちはしないですね。... まあ、管理というかね、協力してるという意味ね。... 隣だと近いから、便宜上なにかあったら見てくれると助かるというだけのことでね。」</p> <p>【Sさん；だんだん】</p>	<p>*9) 「今はもういなくなっちゃったけど公園のところにSさんっていたの。Sさんと私とMFさんとKさんっていうの、そっちの方へ行ったけど、今度そのマンションの向こうの方にね。この四人でやることになったの。だけど結局Sさんも居ないしね、... Kさんの奥さんがやらなくなると、いないんだからできるわけないでしょ。」</p> <p>【Oさん；第二】</p>
<p>*4) 「(ゴミ置場は) こっちに移ったんだけど。このね路地が通れないから自然と向こうに行ってしまったの。... だから却って今、ほら柵立てて向こうに出ないようにしたから、ある程度はしょうがないんじゃないかなとは思うけど。」</p> <p>【MFさん；第二】</p>	<p>*10) 「私たちも空間ができてこんなすばらしい所が出来たからって喜んで掃除して。私だけ。あとみんな越したり、代が代わったりしてないですよ。... 他はもう年寄りになって歳取ったりして、もうしないの。... で、ここはすぐ草が生えるから、私もね年に二、三回草むしりするんですよ。... だって、一人じゃ大変だ。誰もそんなのしてくれないもんね。」</p> <p>【Oさん；第一】</p>
<p>*5) 「あの、雨の降った後なんか掃除にいくと滑るんですよ、木の所で。それで、結構しりもちついて、こう怪我した人もあるんでね、やっぱり石にしてもらったんですよ。... 周りで、なんとなく話してて、危ないね、ここ。また滑って青くなっちゃったとか。そんな話が出ますでしょ。そういった時に裏の人が来て。言いに行ってくれたと思うんですよ。」</p> <p>【Kさん；かえる】</p>	<p>*11) 「でもね、昔はこんなじゃなかったんですよ。その手前側の公園の所にいた方がね、向かいのおくさんがいつも注意してくれたりして、その方も一生懸命やってださったりしてたので毎日なんて。ほんとにゴミ屋さんの時に出る位で出てなかったんですよ。」</p> <p>【Mさん；第二】</p>
<p>*6) 「バイクが結構あってそういう隅に置いたりして。... お互いに、一人だとやっぱり声かけにくいから、やっぱりねそういう時代だからね、掛け合いながら。注意っていうんじゃなく、やっぱりここに置かない方がいいんじゃないって。... 気が付いてくれば少しづつね、置かなくなるんじゃないかって。やっぱり気が付いたらしくて置かなくなりましたね。」</p> <p>【Yさん；第七】</p>	<p>*12) 「ここはもう四人なんですよ。Yさんという人はもう七十六、七位だからね、ちょっと無理させられないものね。だからね、いちばん働き盛りのTさんと私だけど、私もちょっとこうくたびれたなと思って、あの人もあの人で、ほらまた引っ越しがあるなんてね、ご長男の所に行く予定だから。今もうどうしようかなと思って悩んでるの。」</p> <p>【Kさん；やまもも】</p>

表-6 社会集団の発生と変化

1) 社会集団が存続する要因	
(1) 運営の中心人物の存在	5件
(2) 近所付き合い	5件
(3) 住民の傾向	3件
(4) 他集団の流入	2件
(5) グループのバックアップ	
① クラブのバックアップ	2件
② 協議会のバックアップ	1件
③ 区のバックアップ	1件
2) 社会集団が縮小する要因	
(1) 転居、高齢化	8件
(2) 運営の失敗	1件
(3) 関わり拒否	2件

させたり、問題への対応やそのための役所や公的な機関への要求の窓口となったりしているということである【Tさん；だんだん】*7)など。また、何か行動をおこす時は近所の人が協力し合う傾向があるという、そのポケットパーク周辺の「住民の傾向」〈くろまつ〉などや、『声掛

けるとみんなやってくれる』という言葉に表れているようなそれまでの「近所付き合い」【Tさん；やまもも】*8)などが社会集団の発生する下地になっている例も合計4件見られた。これは比較的長い居住歴を持った住民がまとまって存在しているという背景によるものが多い。この長い居住歴ゆえに親しい近所付き合いが存在し、その中のひとりがポケットパークの管理運営に関わるとその他の人達も共同して関わってくる〈てんとうむし〉など。また「他集団の流入」として、〈やまもも〉では、ポケットパークに関わっている社会集団がそのまま別の空間（花壇）の運営に関わるようになったり、〈くろまつ〉では、もともとゴミ集積場の清掃をおこなっていた人達が広場にゴミ集積場が移動されてくると共に広場の清掃もおこない、利用者のためにゴミ箱も置いて管理したりするようになるという例もみられる。

「社会集団が縮小する要因」としては「転居や高齢化」が8件と主要なものであった【Oさん；第二】*9)【Mさん；第六】など。これは転居、高齢化によってポケットパークに関わる人数が減少してゆきだけでなく、転居した跡地は敷地面積の狭さのために宅地化できず、管理、運営に関わる近隣住民は減少を続けてゆくために、『一人じゃ大変だ』という言葉に表れているように残された近隣住民の負担が増大することにもなる【Oさん；第一】*10)など。このようなポケットパークへの影響力の減少は問題への対応に影響を与え、特に上で述べた中心人物がいなくなる場合は【Mさん；第二】*11)などで『昔はこんなじゃなかった』という言葉にみられるように問題が悪化したケースもあり、社会集団が今後減少することが予想されるポケットパークでは『どうしようかなと思って』という言葉にみられるような今後の運営に対しての不安を感じるという意見も聞かれた【Kさん；やまもも】*12)。

7. 考察

以上の3つの観点の考察から以下のようなことが明らかになった。

1) ポケットパークに対して生活環境の向上の評価が多いが、逆に悪化したという評価もみられる。また「共有地」「観察、監視」といった意識が、管理に携わる行動につながっている。

2) 住宅密集地では空地が少なくポケットパークに「ゴミ」「駐

車、駐輪」「風紀、モラルの悪化」といった問題が流れ込みやすいが、それらに対し空間の改変や運営といったハード、ソフトの両面に対応している。

3) 1)の「意識の表出」や2)の「問題への対応」にポケットパークを契機とする「小規模な社会集団」が形成され、それが機能している実態が明らかになった。

これらのポケットパークの日常の管理運営を支えてきた層は、「小規模な社会集団の縮小」にみられるように変容してきており、今後はそのような状況にいかに対応してゆくかが、まちづくりにおける居住環境管理上の課題となってくる。

今回の調査は、事例研究に留まるものであり、他地域での調査の継続が必要である。また、住民と広場との関係性は周辺環境等によっても異なってくるものと思われ、周辺の物理的、社会的特性などの要因との関連についての分析も今後の課題となってくる。

補注及び参考文献

- 1) 高見沢邦郎(1991): 東京区部における改善型地区整備事業の計画と実施過程に関する研究: 日本建築学会計画系論文報告集第426号, 91-100では、東京区部の改善型まちづくりの問題点の整理と今後の方向性を事業ベースで述べている。
- 2) 本光章一ほか(1991): 修復型まちづくりにおける公的空間拡大過程に関する研究: 第26回日本都市計画学会学術研究論文集, 625-630では、修復型まちづくりの際のセットバック空間、ポケットパークや通り抜けの通路の拡大過程について分析している。
- 3) 中村昌宏(1986): 東京都区部における行政発意による改善型まちづくりの計画形成過程, 第21回日本都市計画学会学術研究論文集, 313-318では、行政発意のまちづくり計画案への、住民参加の影響について述べている。
- 4) 児玉善郎(1993): 住民主体のまちづくりに対する支援システムの研究, 第28回日本都市計画学会学術研究論文集, 49-54
- 5) 卯月盛夫(1995): 住民の主体的なまちづくり活動を支援する「まちづくりセンター」に関する考察, 日本建築学会計画系論文報告集第470号, 161-172では、住民参加のまちづくりの経済面での支援システムとしてのまちづくりファンドの有効性を検証している。
- 6) 葉袋奈美子ほか(1995): 住民主体のまちづくりへの自治体及び外郭団体による支援の現状と課題, 第30回日本都市計画学会学術研究論文集, 331-336では、技術的な支援システムとしてのまちづくりセンターの活動も取り入れて、住民参加の支援システムをより総合的にみようと試みている。
- 7) このような方法により、論を展開している論文としては、木下勇(1993): 三世代への聞き取りによる農村的自然の教育機能とその変容, 日本建築学会計画系論文報告集第450号, 83-92などがあり、中野 卓(1977): 口述の生活史, 御茶ノ水書房, 289にみられるように、社会学、民俗学の分野では口述の分析の方法論として確立している。

Summary : In the field of spacial improvement in highdensity area, there are a number of movements making pocket park at the housing site which is too small to build house.

To make clear what kind of relation there have been between the pocket park and the neighborhood, I reserched about it by hearing upon the neighbors mainly who take part in the maintenance of the pocket park, in the case study in Higashi-ikebukuro 4,5cyoume district in Toshima Ward, Taishido 2,3cyoume district in Setagaya Ward, Ichitera,Kototoi district in Sumida Ward,in Tokyo.

As a result, there are some characteristics about the relation between pocket park and neighborhoods in these following points 1.The consciousness and its appearance 2.Reaction to the problem 3.Apperance of small community and its reduction.